

平成 28 年度 第 1 回広報・広聴委員会会議報告

日 時 平成 28 年 5 月 20 日 (金) 13:30～17:00
場 所 福井県文書館 (県立図書館小会議室)
出席者 辻岡委員長、相京、川上、坂口、高木、深井
藤吉、柳沢 (事務局)

○開会あいさつ (辻岡委員長)

○報告・協議

(1) 報 告

a 会誌『記録と史料』第 26 号発行 (平成 28 年 3 月 31 日)

b 会報第 99 号発行 (平成 28 年 3 月 31 日)

- ・大会報告号にあたる会報の発刊は、大会の記憶が新しいうちに原稿をまとめてもらうために、もう少し早めてもいいかもしれない (たとえば 1 月末)。
- ・現状の中綴じ・ホチキス止めの体裁では、総ページ数を 4 の倍数になるよう構成する必要がある。
- ・個人会員のうち転居先不明で返送されたものが 10 件ほどあった。名簿にメールの記載がある方にはメールで転居先を確認し再送した (うち 4 件)。

c ホームページの維持管理等

- ・27 年度では、各委員会や会員等から寄せられた情報をもとに 79 回更新を行った。

(2) 協 議

a 平成 27 年度事業結果報告・決算報告

b 平成 28 年度事業計画について

- ・ホームページの維持管理に関連し、「常総市水損行政文書レスキュー活動」のバナーにリンクがあることが分かりにくい。バナーのデザインを工夫する (修正済)。
- ・熊本地震関連での情報発信を確認 (「熊本地震 資料保存利用機関等被災状況」)
- ・委員会事務局の負担軽減のために『記録と史料』バックナンバーの販売を業者委託する可能性について、アーカイブズ学会の事例等を調査する。

c 平成 28 年度予算案について

- ・予算案には、引継ぎのため通信運搬費が加わったため事務局事務費が増加するが、事業費において昨年の実績から削減できる部分があり、全体として 17 千円ほど削減される。

d 会報第 100 号の編集

- ・通常より 4 頁増やし、16 頁で構成する。
- ・100 号という記念すべき会報であり、全史料協設立 40 周年にもあたるため、過去の会報の編集にかかわった方に歩みをふり返ってもらうような原稿の執筆が可能かどうか調整する。

● 会誌『記録と史料』第 27 号の編集

- ・過去の会誌の特集テーマを概観し、取り上げるべきテーマについて議論した。
- ・熊本地震に関連し公文書等の資料保存活動の動きが本格的に展開するには、まだ少し時間がかかると思われるが、東日本大震災の際にもまず緊急的な動きを取りまとめて小特集を組んでいるので、今回も複数のテーマのひとつとして取りあげる。
その際、熊本県や宇土市ですでに文書管理条例を整備されていること、九州国立博物館を中心とした文化財防災（「みんなでまもる文化財みんなをまもるミュージアム」）の取り組みが展開していることとの関連が取りあげられないか。
- ・常総市の水損行政文書保全の取り組みも 1 年をむかえるので、被災の特徴や他の災害と比較して、それらの経験が活かされる側面と難しい側面などをまとめてもらう。
- ・近畿部会第 130 回例会では、東大文書館の資料管理の実践が報告された。この報告とそこでの議論をまとめて投稿したいという申し出があった（「アーキビストの眼」に掲載）。
- ・その他の「ネットワーク」「書評と紹介」「資料ふぁいる」などのシリーズについて、掲載候補を出し、8 月の委員会まで継続して各自情報収集を続けることを確認した。

○その他

a 次回開催場所と日時

- ・委員会会議の 2 回目は、追手門学院大学大阪梅田サテライトで 8 月 5 日に開催予定。

b その他の報告・協議事項

- ・全史料協出版物掲載の著作 pdf 公開の進捗状況
会報・会誌の発送に同封して機関会員 61 機関（135 機関中）、個人会員 133 名に依頼（2016 年 4 月上旬）。うち、113 名が許諾。このうち 319 件が掲載済（全体 2,193 件中、15%）
- ・近日中にホームページに依頼文と同意書の書式を掲載する（5/26 掲載済）。
- ・原則として、最新の『記録と史料』の著作は、ホームページに掲載しない方針であるが、「会員刊行物情報」「全史料協この一年」「全史料協会則、投稿規程、執筆要領」「編集後記」については、当会や機関会員の動向を知らせるもので、全史料協に帰属する著作であるので、この部分については発行と同時に掲載する。